

キャリア教育が拓く地域医療の未来

テーマB キャリアパス B-2班

チューター
川崎医科大学 庵谷 千恵子

弘前大学
福島県立医科大学
帝京大学
愛媛大学
高知大学

藤巻 百佳
川島 萌
埴 彩摘
越智 夢乃進
家原 滉二郎



Section 1

- テーマ
- 事前調査

Section 1-1 私たちのテーマ

地方勤務

キャリア教育

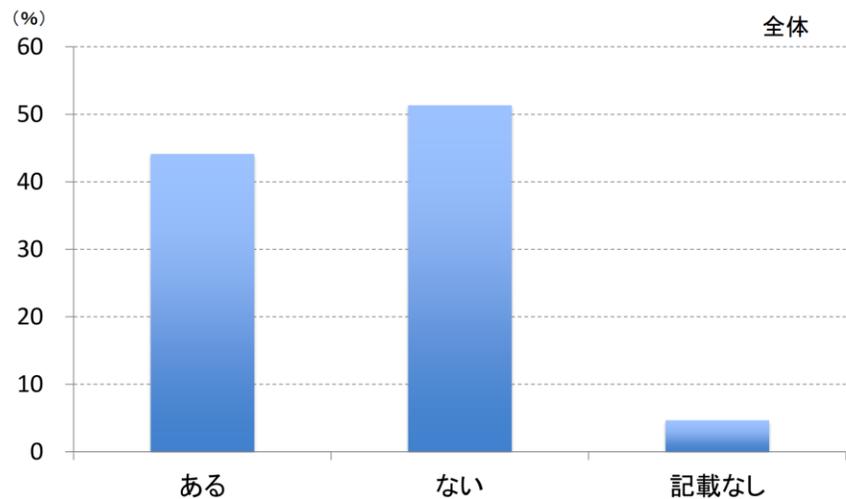
Section 1-2 医師の勤務及び働き方の意向等に関する調査

目的 : 医師の勤務実態や、働き方の意向・キャリア意識の把握

対象 : 全国の医師約10万人（回収済：15,677人）

実施時期：平成29年4月

地方で勤務する意思

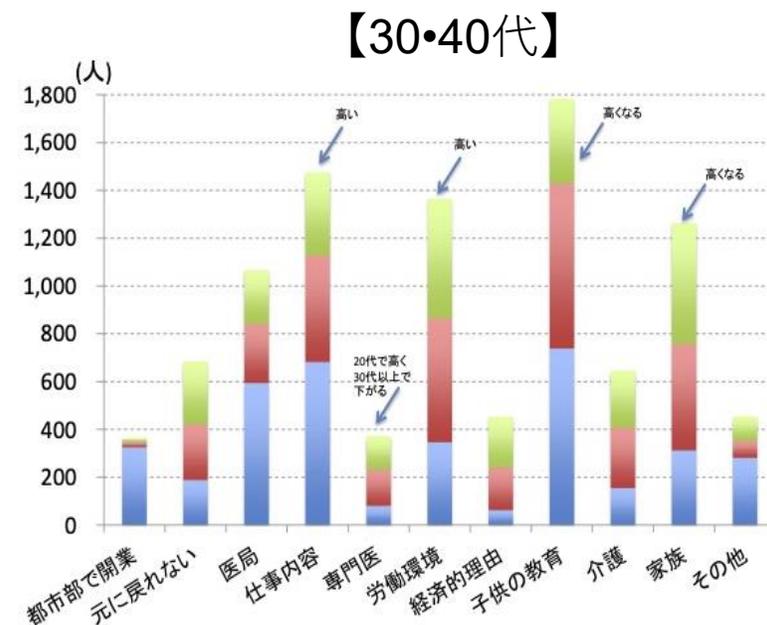
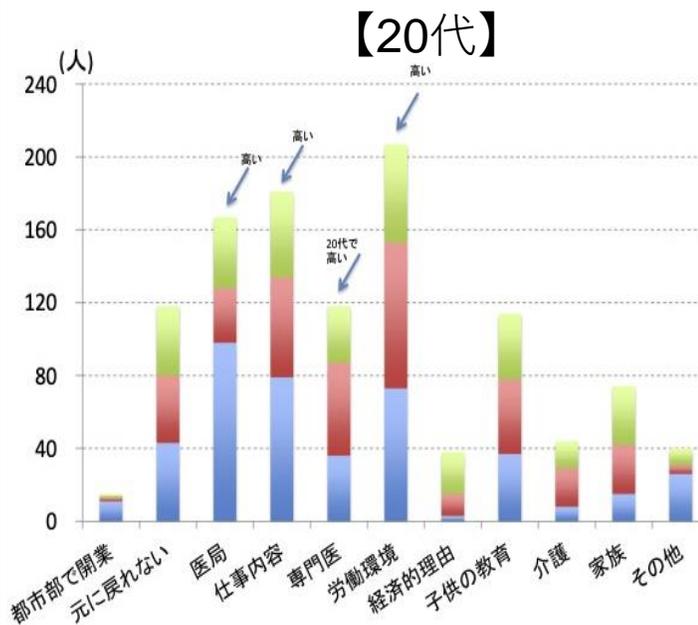


高い給与
手技の豊富さ

労働環境・仕事内容の不安
子供の教育

→労働環境が利点であり不安要素

地方で勤務する意思がない理由



【共通】労働環境 希望する内容の仕事ができない

出典：医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査（平成29年4月）厚生労働省医政局
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000163402.pdf>

Section 1-3 地方勤務の有用性と課題

【概要】 愛媛県内各地域の規模の違う医療機関にニーズ調査

【方法】 医療機関を直接訪問，対談形式での取材

取材先：愛媛県立中央病院（県中核病院 合計827床），愛媛県立南宇和病院（地方拠点病院 合計120床），松野町国民健康保険中央診療所（診療所 19床）

【地方の良いところ】

- ・多職種連携，チーム医療，看取り，全身を診ることなど，地方でこそ多く経験できる事項がある。
- ・多様な人生と出会い，患者の背景に興味を持つきっかけとなる。
- ・子育て上のメリットを感じている医師もいる。

【なぜ医師が集まらないのか？】

- ・上記はどの医師にも共通して重要なものだが何かの専門分野に属するわけではない。
- ・資源不足，マンパワー不足により，十分な指導環境がない。
- ・地方で行われている医療が十分に評価されていない。
- ・医学部に入学するまでの経験が似通っている（都会，進学校，塾，予備校...）。
- ・地域のしがらみに抵抗がある。



Section 2

- 調査の概要
- 結果と考察

Section 2-1

事前調査から 感じたこと

医師の地域偏在を解消したい！

みんなが働きやすい環境を作りたい！

より良いキャリアを築きたい！

他の学生はどう思っているのだろうか？
どうすればこれらが叶うのだろうか？

アンケート調査の実施

Section 2-2 アンケート調査の概要

実施期間 : 2023年 3月20日～3月27日

対象者 : 弘前大学, 帝京大学, 福島県立医科大学, 高知大学, 愛媛大学
第1～6学年 (2022年度) の医学生 (※愛媛大学第6学年は配布が行えなかった。)

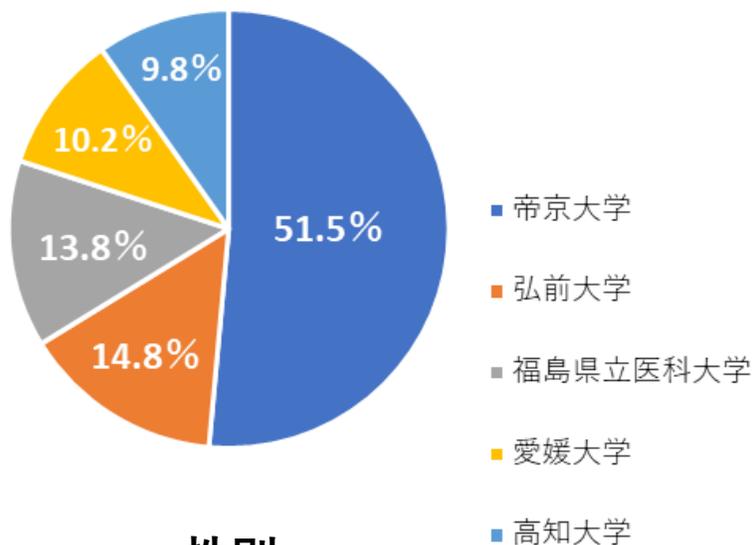
調査方法 : Google formsによるアンケート調査

- 【アンケートの構成】
- ① キャリアに関する質問
 - ② キャリア教育に関する質問
 - ③ 地方勤務に関する質問
 - ④ あなた自身に関する質問

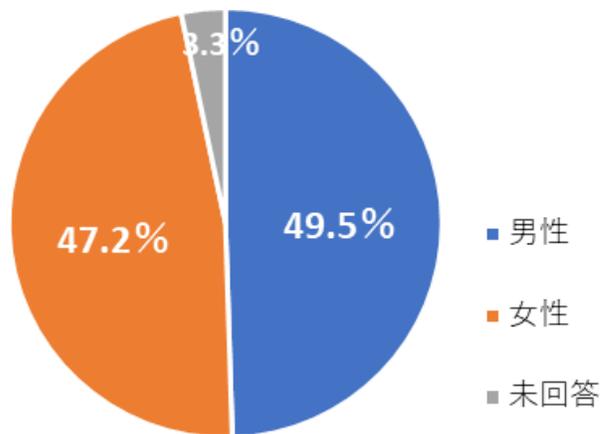
回答件数 : 307件 (回収率 : 8.4% 対象者3669人)

Section 2-3 結果の概要

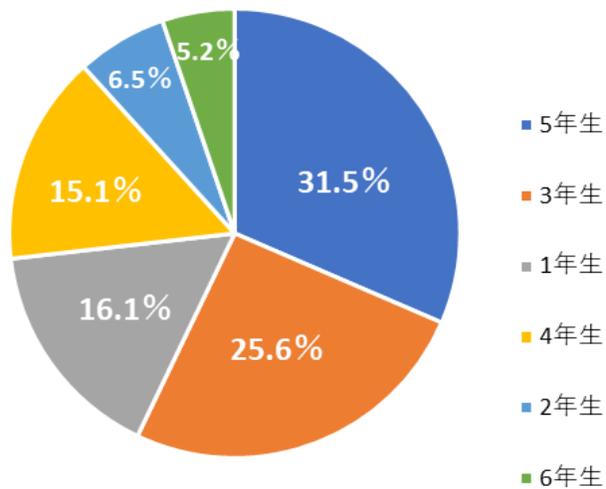
所属大学



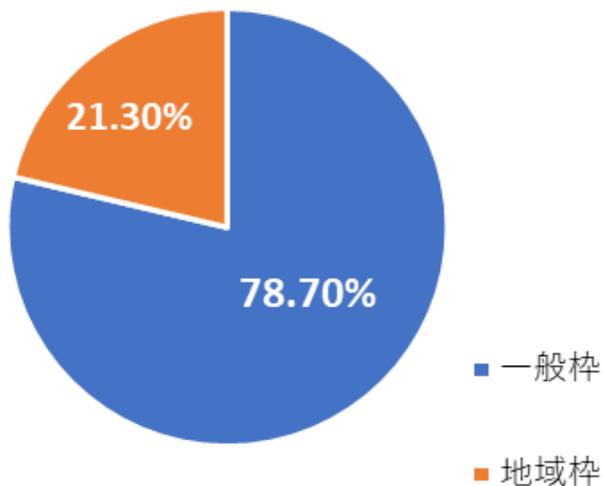
性別



学年



地域枠



大学の地域(地方・首都圏)

下級生(1~3年:48.2%)と
上級生(4~6年:51.8%)

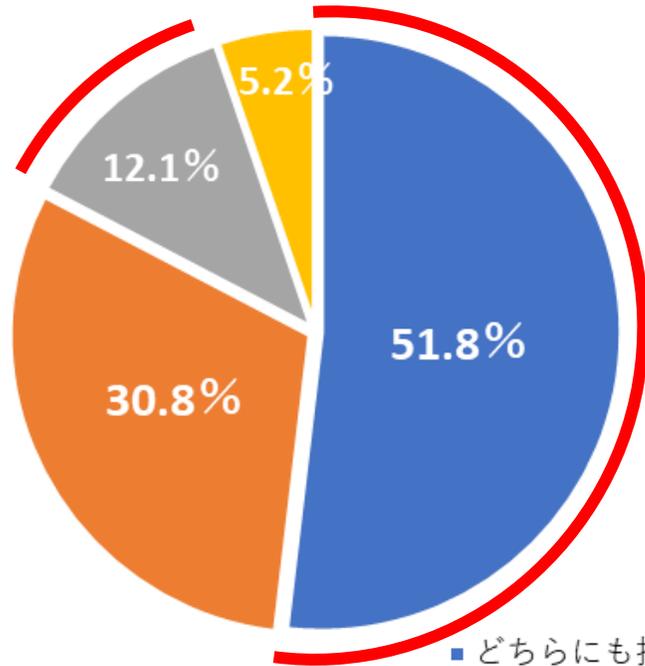
性別

全ておおよそ 1 : 1

地域枠は**21.3%**

Section 2-4 学生の地方勤務への印象

勤務地に対する抵抗感



- どちらにも抵抗なし
- 都市部は良いが地方は抵抗あり
- 地方は良いが都市部は抵抗あり
- どちらにも抵抗あり

地方勤務に
抵抗なし→**63.9%**
抵抗あり→**30.8%**

地方勤務が自身に与える影響

「昇進等のステップアップ」×「医師としてのスキルアップ」

医師としてのスキルアップに与える影響

昇進等のステップアップに与える影響

	1	2	3	4	5	6
1	4	0	2	0	0	0
2	0	11	1	4	3	2
3	2	7	34	20	13	4
4	0	3	11	71	18	14
5	0	0	0	0	41	3
6	0	0	0	0	1	27

「スキルアップ」により高い点数

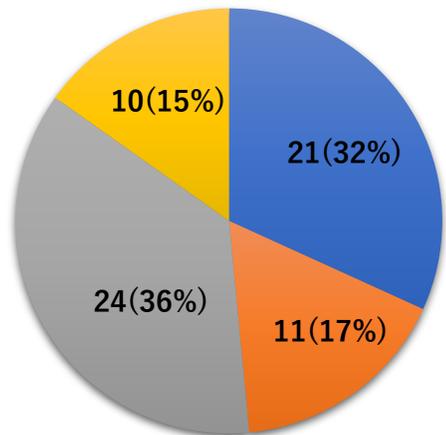
1大変悪い影響

いい影響を与える

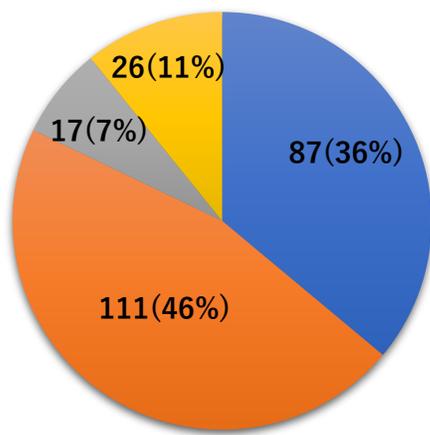
	全体	地方勤務抵抗なし	地方勤務抵抗あり
キャリアアップ	3.91	4.14	3.51
スキルアップ	4.21	4.46	3.77

Section 2-5 地域枠とそれ以外の学生の考え

地域枠



一般



- 1～2年 (参考: 初期研修修了程度)
- 3～6年 (参考: 専門医取得程度)
- 7～9年 (参考: 地域枠であれば義務年限終了程度)
- 10年以上

地域枠

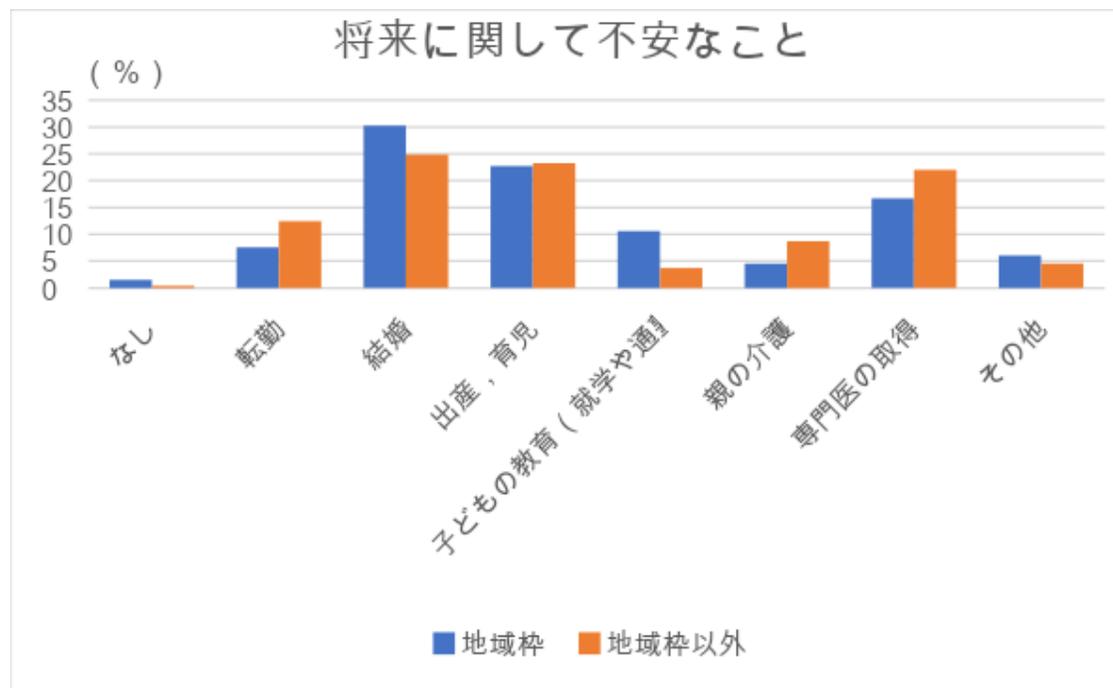
【診療科選択理由1位】
【想定している年数1位】

地方での地域貢献
7～9年

地域枠以外

学問的な興味
3～6年

将来に関して不安なこと



Section 2-6 地方勤務・地域枠の問題点と解決策（自由記述より）

地方でだと他の医師と情報共有しにくいな

22:32

地域枠について入学前説明が少し不十分だよね、あと奨学金の返済が不可能とする新規則を既に奨学も適応したの

22:31

地域枠
共有
頼で
提供

既読
22:32

地域枠制度に頼り続けることなく、
より多くの学生に働きかけ、
地方勤務の有用性を認識してもらおうべき！

僕、地域枠なんだで脱出できる」ってんだ
地域枠は長期的な医師の確保に貢献しているか微妙、、、

22:32

んな制約があるかきちんべきだね、
理解していない18歳の時先の将来を決めさせられ社会全体で見ても良くない

既読
22:32

かもね

義務年限は医師人生トータルで考えても良いかも？
『卒後直ちに』だと特に女性はライフプラン立てづらいよね

既読
22:32

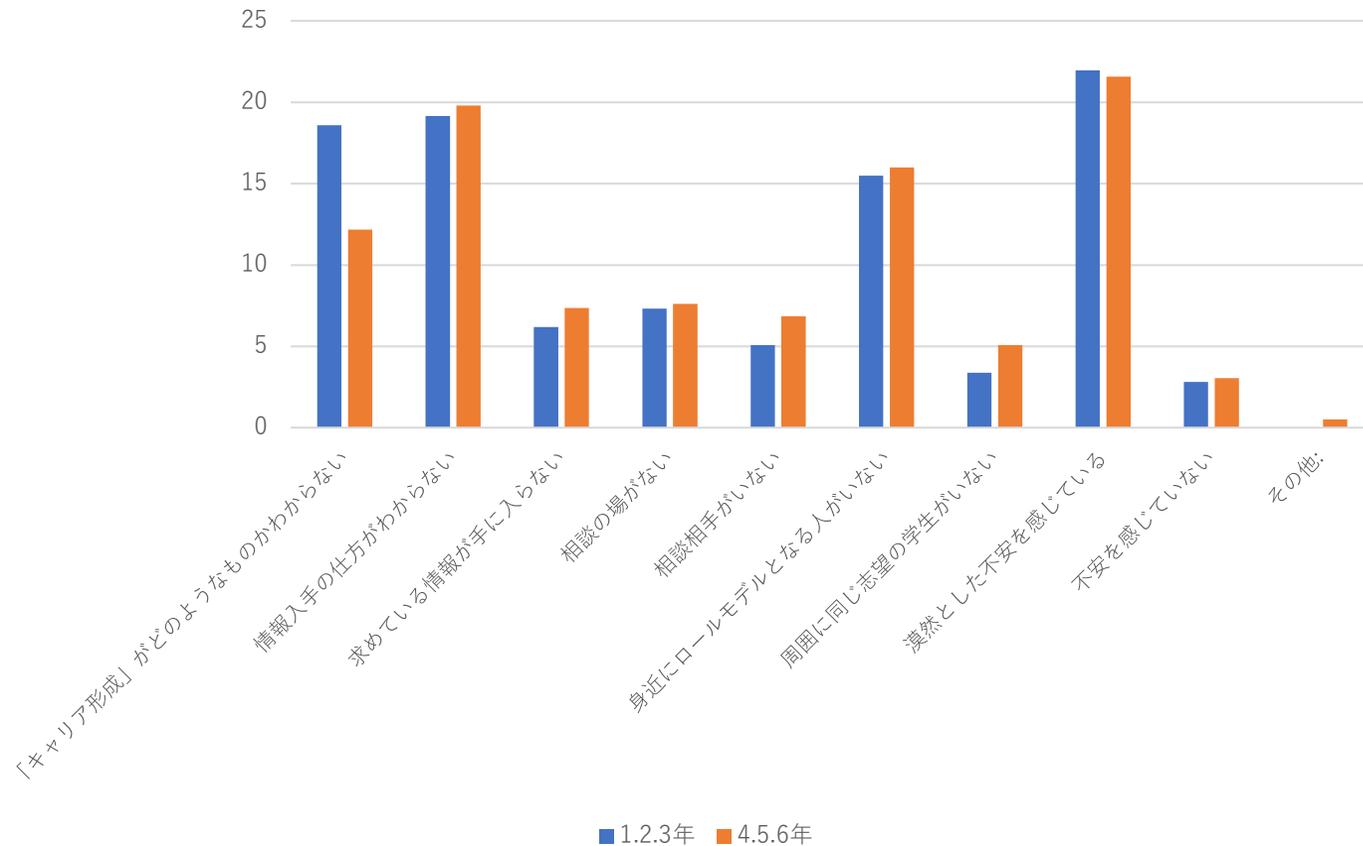
現実的には・・・

- ・入学前に十分な合意形成は難しい
- ・ライフプランへ十分寄り添うことも難しい

今後の長期的な医師偏在の解決手段として望ましくない

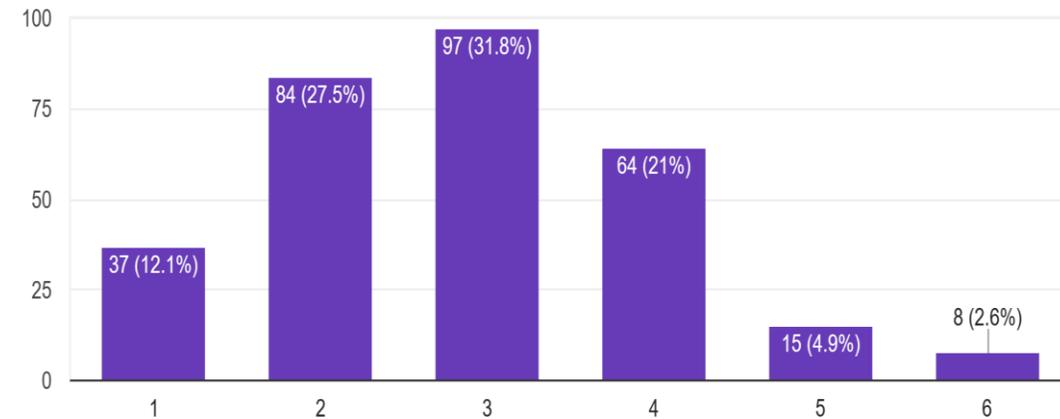
Section 2-7 キャリア形成・キャリア教育に対する学生の思い

キャリア形成にどのような不安を持っていますか？(3つまで選択可)



あなたの大学で行われるキャリア教育は充実していると感じますか？(6段階)

305 件の回答



【平均値：2.87 / 6】

漠然とした不安がある、情報収集の仕方がわからない、身近にロールモデルとなる人がいない、そもそもキャリア形成が何かわからない、を選択している学生が多い。

→ 学生は大学で行われているキャリア教育に満足していない！

「キャリア教育に対する満足度」と

「地方勤務がキャリアに与える影響（昇進等のステップアップ面）」
相関係数（Pearson）：0.30193（ $P < 0.0001$ ）

「地方勤務がキャリアに与える影響（医師としてのスキルアップ面）」
相関係数（Pearson）：0.26349（ $P < 0.0001$ ）

「キャリア教育に対する満足度」と「地方勤務の有用性の認識」に**有意な相関**あり

→ **キャリアに対して知識を身に着ける過程**で、地方勤務の有用性を認識？



Section 3

- 私たちの提言

< 多様・多角的なキャリア教育が諸問題解決の鍵なのでは >

3つの視点からの提言

- ① 地方勤務に抵抗を感じている学生へのアプローチ
- ② 地域枠の学生へのアプローチ
- ③ ライフプラン上の不安に対するアプローチ

☆具体的な介入時期は？

地方勤務に抵抗なし：**63.9%**

- ・スキルアップに有用と考える学生も多い
- ・キャリア教育の満足度と地方勤務の有用性の認識に相関

適切なキャリア教育がされず、卒業してしまうため地域に人が集まらない？

①地方勤務の有用性を知る

多職種連携，チーム医療，看取り，全身を診る...
→地方でこそ多く経験できる！

②地方勤務の抵抗を減らす

キャリア形成で不利にならない仕組みづくり
ライフプラン上の不安の解消

地域枠に頼らず、地方勤務の魅力を伝える努力が必要

地域枠の学生が診療科を選んだ理由

地方への貢献（3割）

地域貢献に対し前向きな反面

自由な選択が制限された結果？

自身のキャリアについて

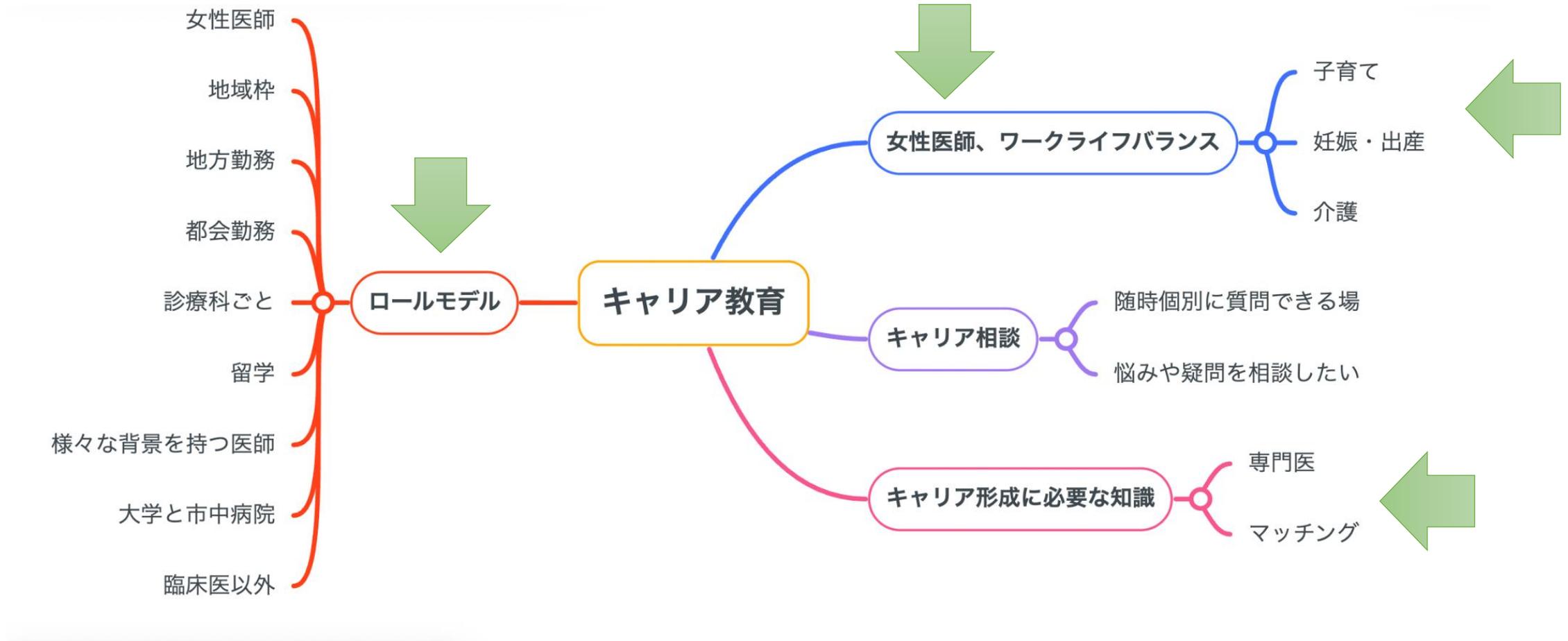
地域枠の学生は約7～9年想定

他の学生より先のことまで考えている

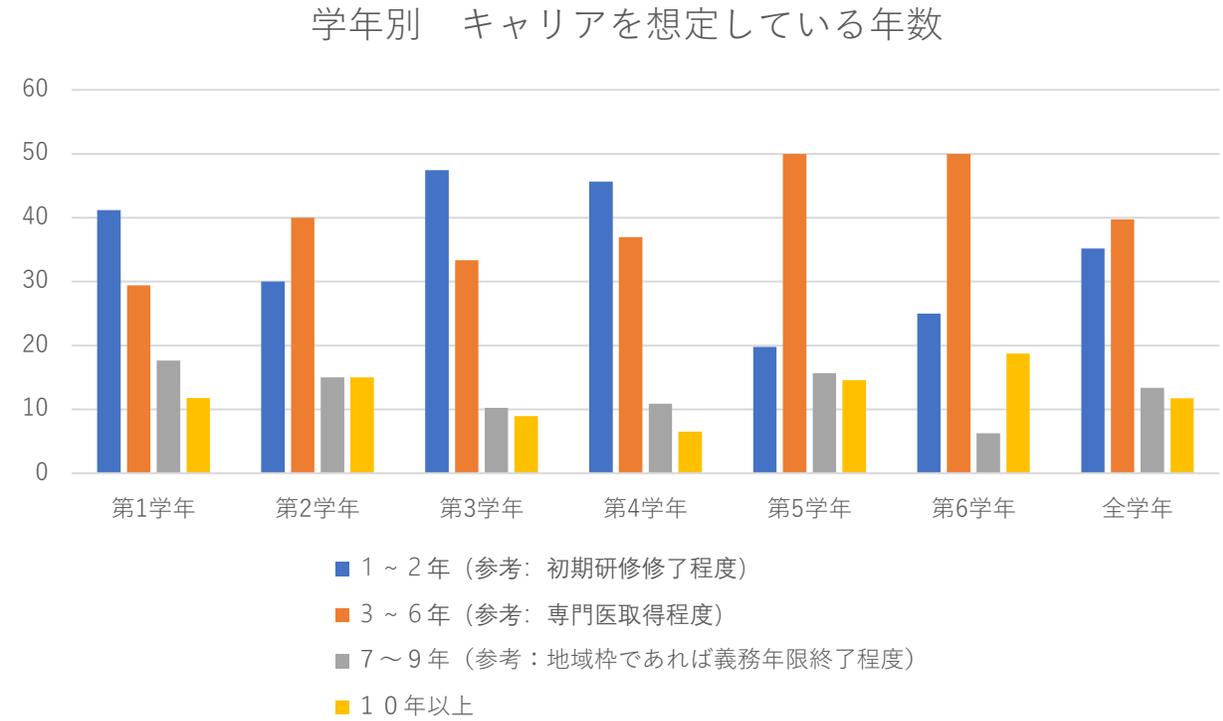
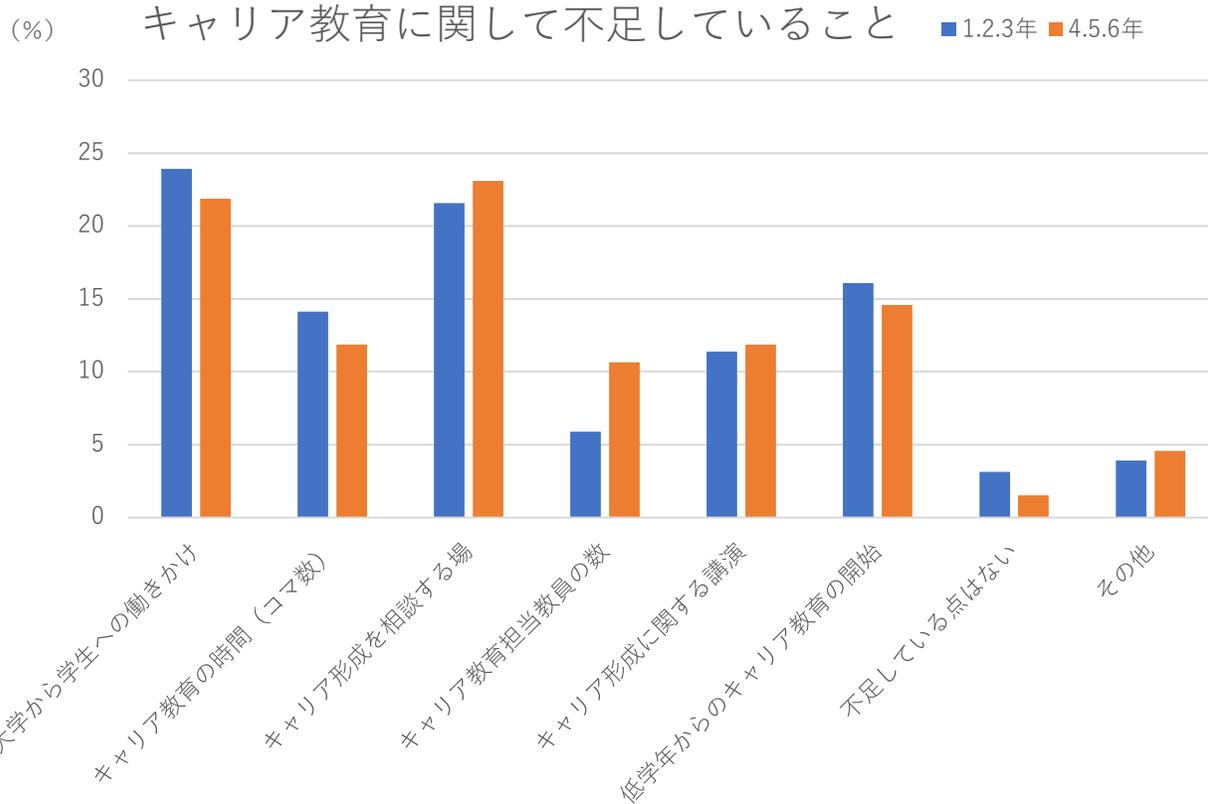
- ①義務年限後を見据えられる介入（7～9年あたりの少し長めの期間に関するキャリア教育）
- ②地域枠出身者がどのようなキャリアを積んでいるのか提示（義務年限中またはその後のキャリア）
- ③地域の利点を十分に生かせるような方法の伝授

Section 3-4 ライフプラン上の不安に対して

地域枠か否かによらず，多くの学生は結婚，出産・育児，専門医の取得が不安要素となっている。



Section 3-5 キャリア教育はどの時点で行うのが効果的か？



学年ごとに大きな差がない

→キャリア教育を低学年からスタート

or

すべての学年が試験等で忙しい？

→時間に余裕がある時期に**繰り返し**考える

第5学年から「3~6年」が急上昇

→5~6年では初期研修の情報+3年目以降の長いキャリアの情報が必要。

低学年であっても長期的に考えている学生もいるため両方への働きかけが必要。

Thank you for listening !

Performed by

弘前大学	藤卷	百佳
福島県立医科大学	川島	萌
帝京大学	埴	彩摘
愛媛大学	越智	夢乃進
高知大学	家原	滉二郎

Directed by

川崎医科大学	庵谷	千恵子
--------	----	-----